

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292500145		
法人名	株式会社 MOUNT FLOW		
事業所名	クララ清流式番館		
所在地	千葉県流山市古間木313-6		
自己評価作成日	平成26年10月1日	評価結果市町村受理日	平成26年12月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ACOBA		
所在地	我孫子市本町3-7-10		
訪問調査日	平成26年10月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>クララ清流式番館は</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 寝たきりにさせない 2. メリハリをつけた生活リズムの継続 3. 残存機能を活かしてできることはご自分で <p>を合言葉に、スタッフ一同取り組んでいます。</p>

<p>当ホームは平成24年4月に、クララ清流本館に隣接して立ち上げた1ユニットのホームである。センスの良い設えの施設で、比較的介護度の低い利用者がそれぞれに役割を持ち共に生活している。特に「メリハリのある生活リズムの継続」に留意して自立支援の介護に取り組んでおり、きめ細かな職員の対応で、ほとんどの方が入浴や排せつについても自立が継続できている。高齢者介護に強い思いを持ったオーナーの介護理念に基づき、管理者と女性リーダーが中心となり、職員は明るくも生きいきと利用者に寄り添っている。設立後2年半が経過し、利用者・職員・家族・地域との連携も深まり、今回の利用者アンケートにも全家族から忌憚のない感想を頂ける関係を作り上げている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念「尊い存在として大切に思う心」を持って管理者の指導の下、ケア実践に努めています。	クララ清流の基本理念を継承し、管理者、リーダーを中心に職員間で、日々利用者の状況につき話し合いながら理念の実践に努めている。理念は事務所やリビングなど、職員にも利用者にも目に付きやすいところに大きく掲示されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の散歩や地域行事や清掃へ参加して、接点を持つように努めている。	地域の方には毎回運営推進会議や防災訓練に参加頂く一方、利用者は職員とともに地域の行事や清掃活動に参加するなど日常的に良好な協力関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いつ相談に来ていただいても対応可能な事業所だと思います。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的に行っている。入居者のご家族様が安心して信頼して頂けるように、報告や話し合いを行っている。	会議は3か月に1度家族の参加しやすい土曜日に開催している。毎回市・地域包括職員、自治会代表の他、利用者家族にも多数参加を得て、活動報告・評価・要望事項の受け止め等、忌憚のない意見交換に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の職員は運営推進会議にも出席されるので、様子を知っていただく機会となっている。	運営推進会議には土曜日にもかかわらず、毎回市職員及び地域包括職員の参加を得ている。会議終了後の意見交換を含め、ホームの運営に理解を深めて頂くとともに、相互啓発に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないように努力している。身体拘束に関する外部研修の機会もとらえ、スタッフ全てが受講できるよう申し込んでいる。	毎回県の研修には積極的に申込み、またホーム内での話し合いで全スタッフの理解を深めている。不穏にならないケアに努めており、職員の気配りと良好な周辺環境の下で、玄関や門にも施錠せず開放感が確保されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体をチェックをまめに行っている。防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度については今後勉強会を開きたい。成年後見人制度を利用している方もおられるが説明の必要は特に出ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の時、ご家族様からの質問等を含め、時間をかけ説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様、ご家族様からの意見要望は常日頃、聞き取り、報告し合う様にしている。運営推進会議でもその場を設け、運営に反映させている。	設立2年半の新しいホームで、利用者・家族も比較のお若い方が多い。運営推進会議に多数の家族に参加頂けるよう工夫する等して、双方が率直な意見が出せるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はミーティングもしくは日々の報告、連絡等でスタッフの意見提案を聞いている。面談はこまめに行っている。	管理者のもとで、中堅の女性リーダーを中心に職員とのコミュニケーションは良い。業務終了後に自然な形で職員が集まり、日々の気付き等についての会話があり、介護力の向上につながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談を常に行い、職員の考えていることを汲み取っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアの指導は日々行われています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホーム連絡会を通してそのような機会があればとらえたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様の話を良くお聞きし、今、何をされたいのか出来る範囲で意思を尊重するように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントシートなどを活用しながら、ご家族の不安や要望を汲み取り、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居検討のご本人に実際に会いに行き、見極めの努力をしている。体験入居や一日体験という仕組みを活用しながらご本人納得の上でのサービス利用につなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一日の生活の中で一緒に行動し、家事やレクリエーションを楽しんだりして、家族である、と感じて頂けるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様のご面会や電話があった時などホームでの様子をお伝えし、ご本人様と十分時間を取って頂くよう心掛けている。必要があればご家族の協力を要請している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問しやすい雰囲気づくりによって支援に努めている。会話の中でも馴染みの人や場所を話題にしている。	家族や知人、友人が度々訪れ、ゆっくりと過ごしている。お正月に自宅に帰られる方も多く、家族との絆を大事にしている。ご近所の方とは散歩の折、野菜や果物など頂き、新しい馴染みの関係も生まれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士お話されている時は見守り、孤立させないようお声をかけ、トラブルにならない様しっかり目を配っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	要望のあったご家族様からの相談があれば是非対応したいと思う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に、一人ひとりに話しかけ、思いや希望を聞き、困難な場合は様子を踏まえて、ご本人にとっての最善は何かということを第一にして検討している。	日常のコミュニケーションはゆっくり焦らずを心掛け、言葉の少ない方にはアイコンタクトを大切に、仕草や表情から真意を汲み取っている。利用者に寄り添い何が最善かを職員は常に考えて支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様から初めにお聞きしている。入居してからも新しい情報を頂くこともある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のご入居者様のご様子はスタッフ間での連絡、報告、また記録を見ながら共有するよう心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリング、ご家族様の意見を取り入れ、介護計画を作成している。	一人の職員が3人を受け持つ、担当制を取り、一人ひとりに心を通わせる介護に取り組んでいる。利用者の望みや、何が最善かを担当職員の意見や家族の要望を取り入れ計画を作成している。モニタリングは定期的に行い、日常生活に即した介護計画になっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は欠かすことなく毎日行い、特変、対応、その結果については詳しく記入するように指導されている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や送迎の支援などご本人ご家族様の状況に応じて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りやイベントに参加したり近所への散歩によって自然に触れ季節感を楽しむことができる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を希望の方は、その医療を受けて頂くようにしている。ご家族が受診対応できない時には受診付き添いを行っている。	協力医療機関による月2回の訪問診療が行われている。精神科受診の際は職員も同行し日々の生活、身体状況を医師に伝え情報を共有している。歯科医治療の通院支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のバイタルチェックの情報など気づいた点を詳しくかかりつけ医に伝え、適切な受診を受けられるよう心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはADL等の情報を伝え、退院後には施設での生活がスムーズにいくように、情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にも終末期の対応の指針についてご説明をしている。ご本人の様子を見ながら管理者と共にご家族様と話し合いを重ね、共有を図っている。	入居時に「重度化対応に関する指針」について説明し同意を得ている。本人にとって安心と穏やかな暮らしの最善の方法について、家族と話し合いを重ね方向性を同じにしている。「私の最期をここで迎えたいのでよろしくね」と職員に話す利用者もいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングや現場で初期対応の指導を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防訓練を行っている。夜間を想定した訓練を行い、地域の賛同者の方の協力を得ている。	消防署立ち合いの訓練と本館と合同の訓練を行っている。利用者は避難場所まで何分で歩けるか体験し、職員は夜間一人で全員を避難させる場合を想定した訓練をしている。消防設備会社、近隣世帯の協力を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所の理念のもと、常に心掛けている。	管理者の指導の下、全職員はその人の持っている誇りを大事に、一人ひとりの自立心を大切にしている。声掛けの時は言葉を選び優しく、また自己決定が出来るよう心がけている。	管理者はリビングで利用者の間に座り、手を握り、アイコンタクトを取りながら笑顔で話しかけている。、利用者の安心に繋がっているので今後も継続してほしい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思確認をし、難しい時には決定しやすい問いかけをするように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	リビングでレクを楽しんで頂くことが中心ですが、居室で過ごす時間が必要な時には尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時にはご自分で出来る方にはゆっくりと時間を掛けて行って頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作り、盛り付け、食事、片付けと、ご入居者様、職員一緒に行っている。	食事作りは利用者の得意なこと、したいことを分担し、職員と行っている。誤嚥性肺炎の予防に繋がる食前の嚥下体操と、口腔ケアで、いつまでも自分の口で美味しく食べることを目指し、大きな声で唱和していることは評価できる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量については記録し、支援している。水分摂取には特に力を入れ支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には毎回口腔ケアを行い、ご入居者様の力に応じて支援している。入れ歯の手入れも確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録しながら、早めのトイレ誘導をし、トイレで排泄できるよう支援している。	排泄リズムを把握して声掛け誘導をそっと行い、気配りしている。自立した排泄を続けるため積極的に歩くことで下肢筋力をつけている。夜間もオムツを使わない方針で、布パンツで自尊心を大事にした支援が来ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ薬に頼らず、飲食物の工夫、水分摂取、運動などを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっている。入浴を楽しんで頂けるよう心掛けている。	広い浴室 脱衣室は、ヒートショック対策が取られ安全で快適な入浴ができています。柚子湯や菖蒲湯等で季節を感じたり、リーダーは入浴時努めて利用者と会話を交わし和やかなゆったりとした時を作り出している点は特筆できる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中出来る限り体を動かし、布団干し、シーツ交換をして夜間は安心してお休み頂けるよう心掛けている。 もし日中体調が優れない場合は休息して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者がきちんと把握し、スタッフは一人ひとり間違いなく薬を服用する様気をつけている。薬が変わった時は体調の変化も気を付けて見ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々散歩やゲームなどを行い、その中で会話をし、お好きなことを把握するよう心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩を雨の日以外は必ず行っている。ご本人の外出の希望があった時にはご家族の協力をお願いしている。	天気の良い日の散歩は、健康維持に欠かせず全員で出かけている。町会の納涼祭ではヨーヨー釣り券や金魚すくい券を使う工夫で、昔を回想でき、わくわくした気持ちになり、笑顔がはじけていた。アンケートでも外出支援が高い評価となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は事務所管理。今後買い物に行った時にはご本人が支払いを出来るような支援を行いたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状、暑中お見舞いなど送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に心地よく過ごして頂くよう、毎日清掃と換気は必ず行っている。リビングには季節感のあるものを飾るようにしている。	大きな窓から、陽の光が燦々と入るリビングや広い廊下では、利用者が職員と両手を繋ぎ、話をしながら歩く姿や、家事を手伝ったり、穏やかに、好きな事をしている方等明るい。家族からは「清潔で居心地のよさを感じているホーム」の声が聞かれ来訪者も多い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓以外にもソファがあり、自由な交流ができるように工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居開始時に、使い慣れた家具や衣服などを居室に置いて頂くようお願いしている。食器も使い慣れたものを持ってきて頂いている。	天気の良い日はお布団干しやベッドメイキングをし、掃除も自ら行い清潔な環境づくりの支援がされている。好みの家具が置かれ明るく居心地良く、「私の部屋」への特別の思いと安心を作り出している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分の居室やトイレだと分かるように目印をつけている。椅子にもご自身の座布団を置き、わかりやすくなっている。		